

森林セラピーで連携

九州観光振興へ会議設立

日之影など
9自治体

日之影、綾町、日南市を含む九州・沖縄の9自治体は27日、九州・沖縄森林セラピー「基地ネットワーク会議」を設立した。同日、宮崎市のひまわり荘で開かれた設立総会

では、森林の癒やし効果が科学的に認められた同基地間の連携を強め、九州全体の観光振興に取り組むことを確認した。

総会には、福岡県うきは市

や沖縄県国頭村など九州で同基地認定を受けている9自治体から首長ら約30人が参加。日之影町の津隈一成町長を会

長に選んだ。森林セラピー利用者を誘致するためのポスター制作やツアー企画といった事業に共同で取り組む方針を確認した。

津隈町長は「方向性をともにする自治体がパートナーとして連携する必要性を感じていた。効率的で質の高い取り組みを推進し、森林セラピーが人と自然、九州を結ぶ役割を発揮してくれると期待したい」と話している。



9自治体の関係者が集まった九州・沖縄森林セラピー「基地ネットワーク会議」の設立総会。27日午後、宮崎市のひまわり荘

学的にとりま、健康増進や病氣予防などに役立つもの。認定された基地では、遊歩道などを整備、森林浴を楽しむさまざまなメニューで利用者を迎える。全国でも先駆けて2006年に認定を受けた日之影町では、昨年度、森林セラピーの利用者が累計で1万人を超えている。